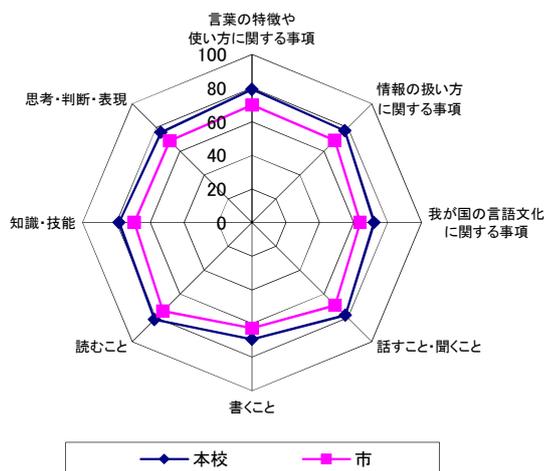


# 宇都宮市立今泉小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.2	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	77.4	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	72.1	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	77.9	69.5	71.5
	書くこと	69.4	62.8	67.1
	読むこと	81.4	74.4	73.7
観点別	知識・技能	78.4	69.4	71.9
	思考・判断・表現	75.9	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○漢字の読みや敬語についての設問では、本校の平均正答率はほぼすべての設問において、9割を超える。</p> <p>●書きの平均正答率は、いずれも市の平均正答率は上回るが、5割程度にとどまる設問が見られる。</p>	<p>・漢字の学習は繰り返し練習を行うとともに、熟語の意味調べや学習した漢字を使った短文づくりをするなど、実際に活用する機会を増やすことで知識の定着を図るようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○情報と情報の関係から、文章の情報を整理する設問では、正答率が8割を越え、市の平均正答率よりもやや高い。</p> <p>●情報と情報の関係を理解し文章にまとめる設問では、市の平均正答率よりも15ポイント高いが、正答率は7割程度である。</p>	<p>・自分の考えとなる根拠や事例を挙げ、読み手を納得させるような文章構成を考え、書く活動を国語に限らず他教科でも取り入れていく。</p> <p>・学習の振り返りを書くなどの自分の考えを適切な言葉を選び、構成して作文する時間を日常的に授業に設定し、国語に限らず横断的に指導していく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は市の平均よりも高い。</p> <p>○語句の由来についての設問では、市の平均より8.3ポイント上回る。</p>	<p>・語源を調べたり、単語を和語、漢語、外来語に区別したりするなど、言語に触れる機会をドリルを活用しながら日常的に授業に設定していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は市の平均を上回っている。</p> <p>○話の内容を捉える設問は、いずれも市の平均を8ポイント以上上回っている。</p> <p>●意図に応じて質問を工夫する設問では、市の平均を7.8ポイント上回るものの、他設問に比べ正答率が低い。</p>	<p>・相手の考えを聞く際には、話す目的や伝える相手をはっきり意識し、考えの根拠も併せて話すことができるように指導していく。</p> <p>・学習活動として、対外的なインタビューを行うなどの体験が行えない場合にも、子ども同士で行うなどの工夫をし、やり取りの中で聞き方を工夫して変えていくことを実感を持って理解できるようにしていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は市の平均より高い。</p> <p>○情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡潔に記述する設問では、市の平均を15ポイント以上上回っている。</p> <p>●指定された長さで文章を書く設問では、市の平均正答率を5ポイント下回っており、無回答の割合が市の平均と比べると高い傾向にある。</p>	<p>・国語の書くことの学習だけでなく、行事の振り返り作文や他教科のまとめ新聞などの機会を生かし、段落の役割について理解できるよう指導していく。</p> <p>・はじめ、中、終わりの文章構成を意識させ、特に書き始めの文章表現を提示することで自分の目的に合った文を書くスキルを身に付けさせたい。また、文字数を意識して文章を書く機会を設けていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は市の平均を上回っている。</p> <p>○説明文の叙述を基に文章の内容を捉える設問の正答率は、市の平均を14.6ポイント上回っている。</p> <p>●登場人物の心情について描写を基に捉える設問の正答率は、市の平均を6.6ポイント上回るものの、正答率は7割強である。</p>	<p>・読書活動を推進・充実させることで、読む楽しさを味わわせると共に、文章読解力を身に付けられるようにする。</p> <p>・接続詞や文末表現から話の前後の関係を整理したり、登場人物の相互関係などを心情描写を基に捉えたりする活動を丁寧に行うことで、読みを深められるようにしていく。</p> <p>・授業の中で音読や範読を重点的に取り入れ、一言一言丁寧に読むことを習慣付けられるようにしていく。</p>